第三款　債務者間ノ連帶ノ效力

第七十条

債務者間ノ連帶ハ義務ノ特別ナル一个ノ代用ニシテ全ク債權者ノ利益ノ為メニノミ法律ノ定メタルモノナルが故ニ若シ債權者ニシテ其有スル權利ヲ喪失スル能力ヲ有スル場合ナルトキハ債權者が此利益ヲ抛棄シ得ベキニト勿論ナリトスト雖モ連帶ノ抛棄ハ他債權者ノ有スル担保ヲ減少セシムルノミニ止マリ決シテ債權自体ヲ減少セシムルモノニ非ラズ債權

ハ本条ノ明文ニ於テ掲クル如クル凡テノ債権者間ニ連合ノモノトシテ存在スベシ

本条ノ明文ハ右ニ掲クル所ノ外仍ホ義務ノ性未有スル所ノ性質ハ連帯ノ拘束ニ拘ハラズ依然トシテ存在スルコトヲ規定セリ此法文ノ意義ハ特ニ債務者ノ各自ニ対シテ義務ノ有スル性質ヲ指示スルモノト解スルコトヲ要スル例令バ債務者ノ中如何ノ利益ヲ有スルモノトシテ有セサルモノト有ル如キ場合ニ於テ債権者ガ

連帯ノ拘束ヲ為シタルトキハ此義務履行ノ利

限ノ有無モ亦絶対ト異ナルコトナリ或ル債務者ハ之ヲ有シ而シテ他ノ債務者ハ之ヲ有セサルヿシ要スルニ此ノ如キ差異ハ連帶ノ消滅ニ由テ均シク消滅スルモノニ非ラサルナリ

是レ之ヲ以テ相互ノ代理ヲ基礎トスルニ所ノモノニ至ツテハ債務者カ連帶ノ抛棄ヲ為スト同時ニ消滅スヘシ何トナレハ相互ノ代理ハ連帶ノ特別ナル性質ニシテ連帶ナケレハ相互ノ代理ナルモノ有ルヘキニ非ラサレハナリ

第七十一条

連帶ノ抛棄ヲ為シタルトキハ此義務履行ノ

立法者ガ本条ニ想定スル所ハ債権者ガ債務者ノ為メニ連帯ノ拋棄ヲ為シタル場合ニ非ラズシテ単ニ其一人若クハ数人ノ為メニノミ此拋棄ヲ為シタル場合ナリ此拋棄ハ債権者ガ明示ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得ベク或ハ財産編第五十条ニ掲クルガ如ク黙示ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得ベシ一人若クハ数人ノ債務者ノ為メニ為シタル連帯ノ拋棄ハ明示ノモノタルト黙示ノモノタルトニテ何ハスト其効力ハ単ニ拋棄ヲ受ケタル債務者ヲシテ他ノ債務者ノ負担スベキ部分

ニ付キ訴追ヲ免カレシムルノミニ非ラズシテ
仍ホ他ノ債務者等ヲシテ此拘束ヲ受ケタル債
務者等ノ負担スベキ部分ノ訴追ヲ免カレシム
ルモノナリ何トナレハ此ノ如クナラサルトキ
ハ連帯ノ拘束ヲ受ケサル債務者等ハ連帯債務
者ノ負担減少シタルガ為メ債権者ノ訴追ヲ受
クベキ恐レ益々大ニシテ結局債務者ノ一部ニ
数人連帯ノ拘束ハ他ノ債務者ノ地位ヲシテ
甚タ不利益ナラシムルニ至ルヲケレバナリ此ノ
如キ理ナルニ依リ若シ連帯債務者ガ二人ニ迄

ギサル場合ニ於テ其一人ガ連帯ノ免除ヲ得タ
ルトキハ全ク連帯ハ消滅シタリト謂フコトヲ
得ベシ
連帯ノ免除ヲ受ケタル債務者ガ自己ノ負担ス
ベキ部分ヲ弁済スルニ先ツテ無資力トナリタ
ル場合ニ於テハ其損失ハ債権者ニ於テ負担ス
ベキコトヲ勿論ナリ
右ニ掲ゲタル二個ノ決定ハ本条第一項ノ例文
ヨリ自然ニ生ズル結果ナリ
本条第二項ノ規定スル場合ハ連帯ノ免除ヲ受

本条第二項ノ規定スル場合ハ連帯ノ免除ヲ受

ケサル債務者ノ一人ガ無資力ト為リタル場合ナリ言テ述ベタル如ク連帯ノ普通ノ原則ニ従フトキハ債務者間ニ無資力ノ者アルトキハ其無資力ヨリ生ズル損失ハ他ノ資力アル債務者ニ於テ分担スベキモノトス（第六十六条）本条ノ場合ニ於テハ直チニ此原則ヲ適用スルコトヲ得ズ即チ前ニ述ブル所ト同一ノ変更ヲ為サザルヲ得ズ

第一連帯債務者ノ負担減少シタル心ガ為メ依然連帯ノ義務ヲ有スルモノハ負担スベキ部分ヲ

増加セシムルコトハ決シテ為シ得ベカラサル所ノコトナリ何トナレバ連帯義務者ノ数ヲ減ジタルハ全ク債権者ノ害為ニ基クモノナレバナリ

此故ニ本条第二項ノ場合ニ於テ決スベキ所ハ他連帯ノ免除ヲ受ケタル債務者ガ若シ此免除ヲ受ケサル場合ニ於テ他ノ債務者ノ無資力ヨリ生ズル損失ニ付キ自カラ負担スベキ部分ハ仍ホ其負担スベキモノナルヤ或ハ債権者ニ於テ自カラ損失スベキモノナルヤノ一点ニ在リ

立法者ハ此場合ニ於テモ已ニ連帶ヲ免除シタル
債務者ノ負担スヘキ部分ニハテハ債権者自カ
ラ負担スヘキモノト決セリ蓋シ債権者カ当初
債務者ノ一人若クハ数人ノ為ニ連帶ノ免除ヲ
與ヘタル場合ニ於テハ其意思如何ヤ此債務者
ヲシテ他ノ債務者トノ連帶ヨリ生スヘキ一切
ノ負担ヲ免カレシムルニ在リシコト勿論ニシ
テ仮ツテ本条ノ場合ニ於テハ此免除ヲシテ元
分ノ効力ヲ生セシメ債務者ニ其フルニ一切ノ
利益ヲ以テスルコトト当然ナリ他日他ノ連帶債

務者ノ一人ガ無資力ト為ルニ至ツテヤ連帶ノ免除ヲ為シタル債權者ニハ当初ノ意思此無資力ヨリ生ズベキ負担ヲモ免除シタルノ意思ニ出ヅト云フモ是レ性後日ニ至リ自カラ損害ヲ受ケントスルニ方リテ此ノ如キ主張ヲ為スニ止マリ之ヲ以テ当初ノ意思ナリト信ズルコトヲ得ズ加之ナラズ実際ニ於テ債權者ガ或ル債務者ノ為メニ連帶ノ免除ヲ為スニ当ツテヤ恩恵ノ事為ヲ為スモノニ非ラズ時トシテハ此免除ヲ與ヘタルガ為メ報酬トシテ或ル利益ヲ

得タルコト有ルヲ可ケレバナリ

得タルコト有ルヿヲケレバナリ

第七十二条

本条ノ規定ハ其定値ニ於テ已ニ財産編第五百十二条ニ掲ゲタリ然レトモ此財産編ノ法文ハ保証并ニ連帯ニ共通ナル系則ヲ掲クルモノニシテ且ツ其適用ハ保証及ビ連帯ニ付テ全ク同一ナリト謂フヲ得サルヲ以テ同条ニ於テハ本編第四十五条并ニ本条ニ譲ルコトヽ又止ムヲ得サルナリ

保証ノ場合ニ於テハ保証人ハ自カラ弁済シタ

ル所ノモノニ付キ全部ノ償還ヲ受クルノ権利ヲ有スルガ故ニ債権者ニシテ若シ債権ノ特別ノ担保ヲ受除シ後ツテ保証人ヲシテ他日弁済ヲ為シタルトキニ当リ其担保ニ代位スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ保証人ハ債権者ニ對シ全部ノ受除ヲ請求スルコトヲ得ベシ然リト雖トモ連帯債務者ニ至テハ自カラ債務全体ノ弁済ヲ為スモ他ノ共同債務者ノ各自ニ向ツテ請求シ得ベキ所ノモノハ唯其各自ガ負担スベキ部分ニ止マルヲ以テ債権者ガ他ノ債

務者ヨリ得タル所ノ特別ノ担保ヲ受除シタル

務者ヨリ得タル所ノ特別ノ担保ヲ免除シタル
場合ニ於テ之レニ對シ請求シ得ベキ所ノ免除
モ亦担保ノ免除ヲ受ケタル連帶債務者ガ負担
スベキ部分ニ止マルモノトス

第四款　全部義務

第七十三条

或ル場合ニ於テハ法律ノ規定ニ基キ若クハ義
務ノ性質上此ノ如クナルヲ要スルニ依リ数人
ノ債務者カ同一ノ債務ニ付キ各々全部ニ對シ
テ義務ヲ有シ而シテ其義務ハ連帶ノモノト称

ルコトヲ得ズ復連帶ノ性質タル默示ノ相互
代理ナルモノハ之ヲサルコトアリ
法律ノ規定ニ基キ數人ノ債務者ガ同一ノ債務
ニ付キ各々其全部ニ對シ義務ヲ有スル場合ハ
民法中千条ニ掲ケタル二個ノ法文ニ於テ之ヲ
規定セリ立法者ハ財産編第三百七十八条ニ於
テ特ニ連帶ナラサルコトヲ明記セズ只同編第
四百九十七条第二項ニ於テノミ此事ヲ掲ゲタ
リト雖トモ數人ノ場合ニ於テモ全部ノ義務ハ
連帶ノ義務ニ訓ラサルノ点ニ於テハ更ニ異ナ

ルコトナシ只全部義務ハ連帶義務ノ主タル性
質トハ一ナル性質ヲ有スルノミ全部義務ノ場
合ハ必ズシモ右ニ掲ケタル二個ノ場合ニ止マ
ラズ仍ホ他ノ法律ノ明文ニ基キテ其適用ヲ看
ルコト有ル可シ

本条第一項ノ明文ハ全部ノ義務ヲ直相スル凡
テノ債務者若クハ其数人ガ債権者ノ訴追ヲ受
ケ而シテ債務ノ全部ヲ弁償スベキコトノ言渡
ヲ受ケタルトキトモ只此一事ニ因リ往来
全部ノ義務ニ止マリシモノガ変遷テ連帶ノ義

務ト為ハモノニ非ラサルコトヲ明カニセリ之
法者ガ特ニ此ノ如キ注意ヲ為シタル所以ノモ
ノハ他ナシ或ハ学者ノ唱ヘル所ニ従ヘバ全部
義務ノ場合ニ於テハ其義務ハ実ニ不完全ナル
連帯義務ニ外ナラズ而シテ債務者ガ全部ノ弁
済ヲ為ス可シトノ言渡ヲ受ケタルトキハ是レ
ガ為メ完全ナル連帯義務ト変ズルモノナリト
断定スルヲ以テナリ此学説ハ全ク其当ヲ失セ
ルモノナリ何トナレバ裁判ニ依リ全部ノ義務
ヲ変ジ完全ナル連帯義務ト為ストキハ是レ新

タニ権利ヲ生セシムルモノニシテ裁判ハ元来

メニ権利ヲ生セシムルモノニシテ裁判ハ元来已ニ存在スル権利ニ對シ制裁ヲ付スルニ過キサルモノナレバナリ

立法者ハ全部義務ト連帶義務トノ間ニ存スル差異ヲシテ益々明カナラシムル為ニ特ニ連帶ナラサル全部ノ義務ノ場合ニ於テハ債務者ノ間ニ於テ相互ノ代理ナルモノ此ラズ又此相互ノ代理ヨリ生ジテ連帶義務ノ固有ノ性質タル所ノ効力ハ至リ全部ノ義務ノ場合ニ於テ適用スルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ

此ノ如クナルヲ以テ例令バ債權者ガ債務者ノ一人ニ對シ訴追ヲ為スモ此訴追ハ他ノ債務者ニ對シテ時効ヲ中断スル効力ヲ有セズ又是レニ對シ債務ニ利息ヲ生セシムルノ効力ヲ有セス債務者ノ一人ノ失シタル過失ニ付キ責任ヲ有スルモ其本人ニ止マリ他ノ債務者ニ至ツテハ是レガ責ニ任スルコトナシ且ツ債務者ノ一人ニ因有ナル防禦ノ方法ハ他ノ債務者ヨリ之ヲ主張スルコトヲ得ズ総令是レニ由テ抗弁セントスル所ガ軍ニ其抗弁ヲ有スル債務者ノ

重出スヘキ部分ニ止マルトキトモトモ掛ル

負担スヘキ部分ニ止マルトキト雖トモ弁済セリトスル全部義務ノ場合ニ於テ債権者ノ訴追ヲ受ケタル債務者ハ他ノ債務者ヲシテ訴訟ニ参加セシメンカ為メ猶予ノ期間ヲ請求スルコトヲ得又債務者ノ一人ニ對シ若クハ其利益ニ於テ下サレタル裁判ハ他ノ債務者ニ對シテ効力ヲ有セス即チ之ヲ害スルコトナク又之ヲ利スルコトナシ

連帶義務ニ関スル規定ニシテ或ハ全部義務ニ適用シ得ヘキモノ有リ或ハ適用シ得ヘカラサ

ルモノ有リ從ツテ如何ナル効力ハ共通ノモノナルヿヲキヤ又然ラサルヿヲキヤヲ明カナラシムル為メ立法者ハ特ニ明文ニ於テ規定スルヿ所アリ蓋シ法律ヲ適用スルヿ判事ヲシテ從フ所ヲ知ラシメンガ為メナリ即チ連帶義務ノ効力ニ関スル規定ニシテ相互ノ代理ニ基キタルモノハ凡テ全部義務ニ適用スルヿヲトヲ得サルモノトス

（関スル規定ヲ全部義務ニ）

相互ノ代理ハ立法者ガ軍ニ連帶義務ニ適用シ得ヘキヤ否ヤヲ定ムルニ當ツテノミ標準トシ

メル所ニ非ラズシテ仍ホ一個ノ義務ガ連帶ノモノナルヤ將タ單ニ全部ノモノナルヤヲ定ムルニ當ツテモ之ヲ擬準トスセリ

例令バ數人相寄テ民事上ノ犯罪若クハ準犯罪ヲ為シ他人ヲシテ兼通ノ損害ヲ蒙ラシメタル場合又ハ數人ノ債務者ガ債務ノ原因タル合意ノ履行ヲ為スニ當ツテ過失アリタル場合ニ於テ立法者ハ他人ヲ害スルヲ為メ真正ナル意思ノ共通存在セシヤ又ハ單ニ連合ノ過失アリタルニ止マルヤヲ区別シ而シテ意思ノ共通ノ場

傳ヘキヤ否ヤヲ定ムルニ當ツテノミ標準トシ

合ニ於テハ之レヲシテ連帯ノ義務ヲ負ハシメ
若シ然ラサルトキハ其全部ノ義務ヲ負ハシム
ルニ止マルカ之ナラズ全部ノ義務ヲ負ハシム
ルハ猶ホ各自ガ損害ヲ加ヘタル程度ヲ分別シ
得ヘカラサル場合ニ止マルモノトス是レ第三
編第三百七十八条ニ於テ規定スル所ニシテ是
レニ反シ法律ヲ以テ刑事上ノ犯罪トシテ罰ス
ル所為ノ本人ニ對シテハ常ニ連帯ノ義務ヲ負
ハシメタリ
又財産編第四百九十七条第二項ニ掲ケタル如

第三者ノ地位高キ歩ヲ以テ債務者ノ有スル義

又財産編第四百九十七条第二項ノ場ケメル如

ク第三者ノ随意ニ干渉ヲ以テ債務者ノ有スル義務ヲ直担シ而シテ債権者ガ除訴ヲ為サヽル場合ニ於テ立法者ハ此債務者ト第三者トヲシテ共ニ全部ノ義務ヲ負担セシメタリ何トナレバ必ズ義務ノ更改ナルモノ成立セサレバナリ且ツ此ノ如キ場合ニ於テハ第一ノ債務者并ニ第三債務者ハ共ニ全部ノ義務ヲ諾約シタルモノナルヲ以テ各自ノ負担スル部分ハ各々義務ノ半額ニ止マルトスルヲ得ズ而シテ第三者ハ自己ノ随意ヲ以テ他人ノ義務ニ干渉シタルニ出

新

マハニ依リ新旧債務者ノ間ニ相互ノ代理アリ
ト云フヲ得ズ但シテ連帯義務ニ必要ナル証人
ヲ缺クモノナリ

第二節　債権者間ノ連帯

第一款　債権者間ノ連帯ノ性質及ビ原因

第七十四条

債権者間ニ於ケル連帯ハ之ヲ債務者間ノ連帯
ニ比スレバ実用上甚ダ有益ナラズ此ヲ以テ実
際ニ於テハ其例ヲ看ルコト甚ダ罕ナリトス又債
務者間ノ連帯ニ於ケルト均シク債権者間ノ連

夢モ亦債権者間ノ相互ノ代理ヲ以テ基礎ト為

第七章 債権者間ノ相互ノ代理ヲ以テ基礎ト為スモノニシテ其目的トスル所ハ均シク債権ヲ保存スルニ在リ此故ニ両種ノ連帯ノ間ニ存スル所ノ差異ハ一ハ債権者ノ間ノ相互ノ代理ニ基クモノニシテ一ハ債務者間ノ相互ノ代理ニ基クノ一点ニ在リ債権者間ノ相互ノ代理ハ後ニ至リ抛棄ノ効力ニ関シテ説明スル所ヲ除ク外概シテ主メル合意ノ必要ナル部分ヲ為スモノニシテ敢テ抛棄スルコトヲ得ベカラサルモノナリ従ツテ此点ニ於テハ多少ノ危嶮ナシ

ト云フヲ得ズ

債権者間ノ連帯ナル代用ヲ債権ニ附スルコトハ外国ニ於テモ甚ダ其例多カラサルヲ以テ本邦ニ於テモ亦実用稀レナル可シト雖トモ猶本事者ガ此ノ如キ代用ヲ合意シ所シテ自カラ其一切ノ効力ヲ規定セサル場合ノ為メ種々ノ担保ヲ規定スルニ当リテ法文ヲ設クルハ必要ノコトメルヲ信ズ例シヤ普通民事上ノ合意ニ於テ其例証ナシトスルモ商事上ノ合意ニ於テハ債権者間ノ連帯ノ実例ヲ看ルコト少カラサ

ル可キニ於テオヤ例令バ為替手形又ハ約束手

ルヿキニ於テハ例令バ為替手形又ハ約束手
形ヲ数人ノ人ノ利益ノ為メニ振出シタル如キ
是レナリ
或ル場合ニ於テハ同一ノ債務ニ付キ債権者百
ノ連帯ト債務者間ノ連帯ト同時ニ成立スルコ
トアルヿ可シ然リト雖トモ此ノ如キ二種ノ連帯
ノ法律ハ若シ連帯ノ系則ニ異シ何等ノ変更ヲ
モ生セシムル者ニ非ラサルヲ以テ今只一人ノ
債務者ニ對シ数人ノ債権者カ連帯ヲ以テ債権
ヲ有スル場合ヲ規定スルニ止ムヿ可シ

本条ノ規定ニ仍レハ債権者間ノ連帯即チ御方ノ連帯ハ合意ニ因テ生スルコトヲ得ヘク又ハ遺言ニ因テ生スルコトヲ得ヘシ之ヲ換言スレバ御方ノ連帯ハ受方ノ連帯ト異ナリテ只二個ノ原因ヲ有スルニ止マリ第三ノ原因ヲ有セズ即チ法律ノ規定ニ基ク債権者ノ連帯ナルモノ

有

ナラズ

然リト雖トモ是レ恒民法ニ於テ之ヲ認フノミ

此故ニ民法中ニ於テハ未タ債権者間ノ連帯ナルモノヲ命スル規定アラズト雖トモ他日或ハ

特別ノ法律ニ由テ其適用ヲ省ルコトヲキヲ保セズ立法者ハ債権者間ノ連帶ハ明示ヲ以テスルヿ非ラサレハ之ヲ約スルコトヲ得ズト謂フヿ非ラズ然レトモ裁判所ガ働方ノ連帶ヲ認ムルニ当ツテハ必ラモ其意思ガ当事者ノ愛為ニ依リ明カニ知リ得ベキ場合ナルコト必要ナルハ勿論ナリ

第七十五条

本条ノ規定ハ前ニト第五十三条ノ規定ト相類セリ然レトモ其規定ノ用一ナルガ為メニ両者

互ニ流用スルコトヲ得ズ何トナレハ一方ニ於テ債権者ト称スル所ノモノハ他ノ一方ニ於テ債務者ニシテ前者ニ於テ債務者ト規定スル所ノモノハ後者ニ於テ実ニ債権者ニ該当スルモノナレバナリ此ヲ以テ立法者ハ第四十三条ノ規定アルニ拘ハラズ仍ホ本条ノ明文ヲ設ケタリ而シテ其規定スル所ノ事項ハ之ヲ要スルニ若シ債権者ニ對シ債権ノ目的及ヒ原因ノ四一ナルコト債権ノ原因タル行為及ビ其高低、場所、体様及ヒ更期ガ四一ナラサルヲ得ベキコト是

レナリ

第二款　債権者間ノ連帯ノ効力

第七十六条

本条ハ其第一項ニ於テ債務ノ連帯ノ主タル効力ヲ示セリ各債権者ハ完全ニ一人ニテ債権者タル場合ト同ジク義務ノ全部ノ履行ヲ請求スル権利ヲ有スルモノナリ因ヨリ其債権者ト他ノ共同債権者トノ関係ニ於テハ概シテ債権者ノ各自ハ債権ニ付キ自己ノ得分ニ帰スヘキ一部ノ権利ヲ有スルニ止マル何トナレハ其他ノ部

分ニ関シテハ他ノ債権者ノ代理人ニ過キサル
ナリ然レトモ債務者トノ関係上ヨリ之ヲ論ス
ルトキハ債権者ノ各自ハ債権ノ全部ニ付キ権
利者タルモノナリ
右ニ掲クル所ノ第則モ亦他ノ第則ト中テ制限
セラルルコトヲ要ス他ノ第則トハ何ソヤ曰ク
各債権者ハ其他ノ共同債権者ノ権利ヲ保存ス
ル為メニノミ是レカ代理人タルモノニシテ決
シテ其権利ヲ敷衍スル為メ代理人タルモノニ
非ラサルコト是レナリ此制限ヨリ生スル結果

八第七十八条ノ下ニ於テ之ヲ説明スベシ

ハ第七十八条ノ下ニ於テ之ヲ説明スベシ

御方ノ連帯ハ受方ノ連帯ト均シク決シテ不可分ノ性質ヲ義務ニ附與スルモノニ非ラズ因テ連帯ノ場合ニ於テハ各債権者間ニ於テハ債務者ニ對スル訴追ヲ分別スルコトナク一人ニテ全部ノ請求ヲ為スコトヲ得ベシト雖トモ若シ債権者ノ一人ガ死亡シ数人ノ承継人ヲ遺シタル場合ニ於テハ其承継人ノ間ニ於テ債権ヲ分別スルコト当然ナリトス

或ハ場合ニ於テハ債権者ノ一人ノ為シタル訴

訴ヲサルコト是レナリ此制限ヨリ生ズル結果

追ニ由テ下サレタル判決ガ他人債権者ニ對抗セシル、コトヲ得ベク且ツ他ノ債権者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ベカラシムル為メ債権者ノ一人ガ債務者ニ對シ訴追ヲ為シタルトキハ他ノ債権者モ亦自己ノ利益ヲ防禦スル為メ訴訟ニ参加スルコトヲ得セシムルヲ妥当ナリト認ム

シテ是レ既モ連帯債務者ガ反對ノ場合ニ於テ第五十六条第二項ノ規定ニ從ヒ訴訟ニ参加スルト異ナルコトナシ

立法者ハ特ニ之ヲ明記セズトモ訴追ヲ為シタル債権者ガ債務者ノ主張スル防禦ノ方法

シメル債権者ガ債務者ノ主張スル防禦ノ方法ヲ抗弁スル為メ一人若クハ数人ノ共同債権者ヲ訴訟ニ参加セシムルヲ以テ利益ト為ストキハ之ヲ償還シ得ベキコトヲ論ナリ例令ハ債務者ヨリ提出シタル受取書又ハ其他ノ義務消滅ノ証書ノ筆蹟若クハ印影ノ真偽ヲ明カナラシムル為メ他ノ債権者ヲ償還スルガ如キ是レナリ

第七十七条

右ニ述ブル如ク一人ノ債権者ガ債務ノ全部ヲ

立法者ハ特ニ之ヲ明記セズトモ許追ヲ為

弁済スヘキコトヲ債務者ニ請求シ得ヘキ以上ハ債務者ハ債権者ノ訴追ヲ蒙ッコトナク任意ヲ以テ債務ノ全部ヲ債権者中ノ一人ニ弁済シ得ヘキコト勿論ニシテ且ツ其一人ハ債務者ノ随意ヲ以テ撰擇スルコトヲ得ヘシ

此点ニ付テハ立法者ハ只一個ノ制限ヲ設クルノミ即チ債務者ニシテ已ニ債権者ノ一人ヨリ訴追ヲ受ケ又ハ軍ニ合式ノ催告ヲ受ケタル場合ニ於テハ自ラ任意ヲ以テ他ノ債権者ニ義務ノ弁済ヲ為スコトヲ得サルモノトセリ

立法者ハ合式ノ要求ナル文字ヲ以テ債務者ガ

義務ノ弁済ヲ為スコトヲ得サルモノトセリ

立法者ハ会式ノ要求ナル文字ヲ以テ債務者ガ任意ニ全部ノ弁済ヲ為スコト能ハサルニ至ルハ四ツニシモ或利所ノ法和ヲ受ケタル後ニ止マラズ其前ニ於テモ法律ノ定メタル法式ニ従ヒ要求ヲ為シタルトキハ任意ニ弁済ヲ為スコト能ハサル旨ヲ明カニセリ然レトモ單ニ書状ヲ以テ請求ヲ為シ又ハ口説ヲ以テ之ヲ為シタルニ止マルトキハ債務者ハ未タ任意弁済ヲ妨ゲラルヽモノニ非ラサルナリ

立法者ハ債務者ノ任意ノ弁済ニ冠スル権利ニ

此制限ヲ如ヘ而シテ此制限ヨリ生ズル当然ノ結果ヲ明カニセリ第一合式ノ請求アリタルトキハ債務者ハ此請求者ニ對シテノミ義務ノ弁済ヲ為スコトヲ得ベシ第二四時ニ数人ノ債権者ヨリ数個ノ請求ヲ受ケタルトキハ債務者ハ此数人ノ債権者ヲ合シテ豈ニ弁済ヲ為スコトヲ得ルニ止マル歟之数人ノ債権者ガ請求ヲ為ス場合ニ当ツテハ其債権者相互間ノ権利如何ハ債務者ニ就テ之ヲ決シ得ベキニ非ラズ故ニ債権者ガ債務者ニ對シテ有スル所ノ権利ヲ

主張シ而シテ債務者ニ対シテ有スル所ノ権利ヲ
債権者ガ債務者ニ対シテ有スル所ノ権利ヲ
主張シ而シテ債務者ニ対シテ権利ヲ有セサル以上ハ債務者ハ債権者等ガ主張スル所ニ従ヒ義務ノ弁済ヲ為スコト能ハサルハナリ

第七十八条、第七十九条及ヒ第八十条

立法者ハ更ニ債権者ヨリ訴追ヲ為シ又ハ場合ニ付テ規定ヲ為セリ此三条ニ規定スル所ハ凡テ債務者ガ純然タル裁判上ノ請求ヲ受ケタル場合ナリ

第八条ノ事（第二十五条）并ニ連帯義務ノ事（第五十七条及ビ第五十八条）ノ事ニ関シテハ先ヅ債務

者ガ訴訟者ニ對抗シ得ベキ種々ノ抗弁ノ方法ヲ示シ而シテ後其抗弁ニ関シ裁判所ノ與ヘタル判決ノ効力如何ヲ規定シタリ（第二十六条第五十九条及ビ第六十条）ト雖モ立法者ハ債權者間ノ連帶ニ関シテハ抗弁ノ方法ヲ示スト同時ニ其ニ関スル判決ノ効力如何ヲ明カニシ同一ノ規定中ニ之ヲ掲ケタリ蓋シ其レガ為メニ明瞭ヲ缺クノ所ナクシテ却テ簡單ナルヲ以テナリ之ヲ要スルニ吾立法者ハ抗弁ノ方法更ニ

第七十八条ニ於テ規定スル所ハ債務者ガ債權

ルニ経ヒ特別ノ明文ヲ設ケタルノミ

第七十八条ニ於テ想定シタル所ハ債務者ガ請求ヲ為シタル債権者ニ對シ義務組成ノ瑕疵ニ基ク抗弁ヲ為シタル場合ナリトス即チ義務ノ成立ニ関シ財産婚姻并三百二十五条ノ明文ヲ以テ定メタル一般ノ条件ガ備具セザリシ場合ニ於テ之ヲ理由トシ債権者ノ請求ヲ退ケタル場合是レナリ

此場合ニ於テ其抗弁ニ関スル判決ハ債務者ニ利益ナリシトキハ不利益ナリシトキニ係ハラズ訴訟ニ関セサル他ノ債権者ニ對シテモ亦効力ヲ生

スルモノニシテ或ハ之ヲ害シ或ハ之ヲ益スル可シ然レトモ債権者ノ一人ガ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ他ノ債権者等ハ自カラ訴訟ニ関與シタルモノト推定セラルヽニ出ラズ惟相互ノ代理ノ理由ヲ以テ一人ノ債権者ニ依リ現実ニ代表セラレタルモノナリ蓋シ債務者ニシテ債権者ノ一人ヨリ債務ノ全部ニ付キ訴追ヲ受ケタル場合ニ於テハ債務者ハ是レニ對シ債務ノ全部ニ付キ防禦ヲ為スノ権利アルコトハ論ナリ他ノ債権者ニシテ若シ訴訟ニ参加セント

欲スルトキハ判決ニ至ルマデ何時ニ於テモ之

欲スルトキハ判決ニ至ルマデ何時ニ於テモ之ヲ為スコトヲ得ベク且ツ他リ第一審ニ於テモ之ヲ為シ得ベキノミナラズ第二審ニ於テモ然ルコトヲ得ベク又自カラ進ンデ控訴ヲ為スコトヲ得ベシ此ノ如クナルガ故ニ自カラ訴訟ニ参加セサリシ場合ニ於テ其解怠ヨリ生シタル結果ハ甘ンジテ之ヲ受クルコト当然ナリトス若シ自カラ債務者ノ抗弁ヲ撤弁スルニ足ルベキ方法ヲ有シタリトスルモ之ヲ提出セサルハ自己ノ解怠ニ原スルコト明カナリ

ナリ他ノ債権者ニシテ若シ訴訟ニ参加セント

第七十九条ノ規定ニハ所ハ債務者ガ債務消滅ノ原因ニ基キタル抗弁ヲ為シ所ニテ此抗弁ニ付キ債権者ノ利益若クハ不利益ニ於テ裁判アリタル場合ナリトス

此場合ニ於テハ債務者ガ主張ニハ債務消滅ノ原因如何ニ従ツテ決定モ亦同一ナルコトヲ得ズ

第一ノ決定ハ義務ノ弁済ノ場合ニ適用ニハ所ノモノナリ債務者ハ義務ノ全部ヲ一人ノ債権者ニ弁済ニハ債権利ヲ有スル人モノニシテ此債権利

ハ他ノ債権者ノ一人若クハ数人ニ依リ許追ヲ
為サレサル間ハ制限ヲ蒙ムルコトナシ此故ニ
債権者ノ一人ト人訴訟ニ於テ債務者ガ主張ス
ル抗弁ガ理実ナルヤ否ヤ又其抗弁ガ有効ナル
ヤ否ヤニ付キ裁判所ノ與ヘタル判決ハ義務ノ
全部ニ付キ効力ヲ有スルモノタルコトヲ争ナ
リ

立法者ハ猶ホ相殺ヲ以テ債務者ガ抗弁ヲ為ス
場合ニ於テモ同一ノ決定ヲ為セリ蓋シ相殺ハ
其実抗弁ト同一ノ効用ヲ為スモノニシテ只其

簡便ナルモノニ過キサレバナリ然リトスルトモ
相殺ハ已ニ其性質上弁済ト同一ナルガ故ニ弁
済ニ関シテ第七十七条ノ明文ニ定メタル制限
モ亦相殺ニ適用スルコトヲ要ス相殺ノ原因即
チ連帯債務者ノ一人ニ對シ債務者タルヲ以テ一ノ
債権ヲ得セシメタル原因ガ他ノ債権者ノ一人
若クハ数人ヨリ債務者ニ對シ何等ノ要求ヲモ
為サザルトキニ於テ生ジタルコトヲ必要トス
是レ実ニ財産編第五百二十一条第三項ニ定ム
ル所ニ附加シタル一箇ノ条件ニシテ要スルニ

財産編ノ規定ハ其適用ニ於テ此制限ヲ受ケタル
モノナリ

義務ノ消滅原因ニシテ債権者ノ各自ニ對シ義
務ノ全部ニ付キ効力ヲ生ズルモノハ左ニ掲ク
ル所ノモノニ止マル

義務ノ更改合意上ノ受除及ビ債権者ノ一人ノ
宥恕若クハ其一身ニ基キタル義務ノ免罰若ク
ハ左ニ掲クル消滅原因ヲ宣告スル裁判等ハ此
原因ヲ生セシメタル債権者ノ利益ニ帰スベキ
部分ニ付テノミ他ノ債権者ニ對シテ効力ヲ有

スルモノナリ此三ニ実シ立法者ハ更改ニ実シテハ財産編第五百一条ノ規定ニ違イ義務ノ受除ニ実シテハ固編第五百十五条ニ違リ合同ニ実シテハ之ヲ同編第五百三十五条ニ違シリ立法者ハ婦ヲ相殺ニ実スルトハ之ノ右ニ掲ケタル義務消滅ノ原因ガ他ノ債権者ヨリ何等ノ要求ヲ受ケサルニ失ツテ生シタルコトヲ以テトスル旨ヲ明カニセリ

前ニ掲ケタル義務ノ消滅ニ実スル種々ノ原因ガ義務ノ全部ニ付テ効力ヲ生セスシテ只其一部

分ニ對シテノミ義務ヲ消滅セシムル理由ニ至

分ニ對シテノミ義務ヲ消滅セシムル理由ニ至
テハ已ニ右ニ掲ケタル法文ノ下ニ於テ之ヲ示
セリ即チ連帯債務者ハ共同債務ヲ保存スル為
メ相互ノ代理ヲ為スモノニシテ其必ズ之ヲ毀損
スル為メ相互ニ代理スルモノニ非ラサレバナ
リ然ルニ弁済ニ至テノミ此点ニ付キ例外ア
ル所以ノモノハ他ナシ弁済ハ義務消滅ノ善通
ノ方法ニシテ且ツ他ノ債務者等ハ債務ノ差押
ニ依リ又ハ弁済ニ先ダチ不益ナル時ニ於ケル
参加ニ由テ自己ノ利益ニ属スベキ部分ヲ保護

スルコトヲ得ベケレバナリ然レドモ此ニ提グル他ノ三ケノ消滅原因ニ至テハ他ノ債権者ガ自己ノ為メ保護ノ手段ヲ為スコト能ハサルトキニ於テ生スルコトヲ得ベキモノナリ相殺ニ至テハ之ヲ真正ノ弁済ニ比スレバ他ノ債権者ノ為メニ危険ナシト云フ可カラズ然レトモ本来弁済ト其性質ヲ同ジクスルモノナルガ故ニ是レニ適用スルニ真正ナル弁済ト同一ナル規定ヲ以テスルコト実ニ已ムヲ得サルナリ右ニ掲ケタル如キ事実ノ証據ニ足レル事者ガ和解ヲ為シタ

ル場合ニ於テモ亦之ヲ為サシムルノ決定ヲ為セリ

此点ニ付テハ次ノ注意ヲ先ヅコトヲ要ス即チ無効及ビ相殺ニ関シテ当事者ノ為シタル和解ハ均シク裁判ノ一部分ニ付テノミ効力ヲ生ズルコトヲ得ベシ此事実ノ有無ニ関シ裁判所ノ裁判又ハ裁判ノ性質ヘメル判決ガ裁判ノ全部ニ関シテ効力ヲ生ズルト同一ナラザルナリ此ノ如ク裁判ト和解トノ間ニ差異ヲ設クル理由ハ容易ニ解スルコトヲ得ベシ何トナレバ裁判所ノ審理及

ビ判決ハ他ノ債権者ノ為メニ充分ノ担保ヲ有スト雖トモ当事者ガ任意ヲ以テ和解ヲ為シタル場合ニ於テハ他ノ債権者ハ同一ノ担保ヲ有スルコト能ハサレバナリ

第八十条ノ明文ニ於テ規定スル所ハ債権者ノ一人ノミニ對スル純然タル一身上ノ抗弁ナリ即チ債務者ヲ訴追シタル債権者ニ對スルヽトキハ債務者ガ主張スル能ハサル所ノ抗弁ナリ例令バ詐欺ヲ為シタル債権者ト債務者トノ間ニ於テ合意ヲ為スコト能ハサル契約的ノ

無能力ナル瑕疵存在シタル場合是レナリ此場

無能力ナル瑕疵存在シタル場合是レナリ此場
合ニ於テ債務者ハ其債権者ニ對シテノミ義務
ヲ免ナルベシト雖トモ他ノ債権者ヨリ訴追ヲ
受クルトキハ義務ノ全部ヲ弁済スルコトヲ要
スト雖トナレバ債権者中ノ一人ハ他ノ債権者ト
共ニ連帯ノ権利ヲ有スルモノトシテ組合中ノ
一人ト表做サレタルモ全ク正当ニ此資格ヲ有
シタルモノニ非ラズ従テ之ヲ除キタルニ止
マリ他ノ債権者等ハ是レ如何ニ各自ノ有スル
権利ヲ減少セラルベキニ非ラズ之ヲ要スルニ

債務者ノ抗弁ニ由テ退ケラレタル所ノモノヲ
請求ヲ為シタル債権者其人ニシテ未タ此抗弁
ニ依リ債権ノ存在ヲ打破リタルモノニ非ラズ
債権者中ノ一人ノ有スル権利ヲ目的ト為シ和
解ヲ為シタル場合ニ於テモ亦之ニ倣
タル所ト同一ノ決定ヲ為セリ即チ此場合ニ於
テモ和解ニ由テ消滅シタル所ノモノハ債務ノ
一部分ニ非ラズシテ只債権者中ノ一人ガ他ノ
債権者トノ協合ヨリ退ケラレ従来有ス
連帯ノ関係ガ他ノ債権者トノ間ニ於テ消滅シ

タルニ止ニル

第八十一条

時効ノ中断スルヿハ債務者ノ連帶ニ付スルヿ

〃 債権者ノ為メニ債権ノ保存スルハ別段ニ債権者ノ一人カ如キ別段ノ為シタルハ

其他ノ債権者モ之ニ因テ利益ヲ受クヘシ其

事タルヤ債務者ノ連帶即チ受方ノ連帶ノ場

合ニ於テ債権者カ連帶債務者ノ一人ニ對シテ

為シタル別段カ他ノ連帶債務者ニ對シテモ均

シク効力ヲ生スルハト同一ノ理論ナリ（参看第六

十一条）

時効ノ停止ノ事ニ関シテハ双方ノ連帯ト働方ノ連帯トハ互ニ相似タル処アリ即チ此点ニ関シテハ二箇ノ場合共ニ消極ノ効力ヲ有スルモノニシテ債権者ノ一人ノ利益ニ対テ時効ヲ停止セシムヘキ原因存在スルモ他ノ債権者等ハ之カ利益ヲ受クルヿヲ得ス從テ時効ノ停止ノ利益ヲ受ケサル債権者ハ為ニシテハ債務者ニ対テ時効ヲ援用スルヿヲ得ヘシ

曾テ双方ノ連帯ノ場合ニ於テ述ヘタル如ク債権者ノ一人カ債務者ノ配偶者タル場合又ハ債

権利ノ一人ノ権利ヲ期限若クハ条件ヲ有スルニ当リ他ノ債権者ノ権利ハ単純ノモノナル時分ヲ任意スル日ハ是等ノ事情ノ為メニ時効ノ停止ノ利益ヲ受ケ権利ヲ任存スル債権者ハ只自己ノ利益ニ帰スヘキ部分ニ付テノミ時効ヲ免カルヽモノニシテ他ノ債権者等ハ是カ利益ヲ受クルヿヲ得ス即チ債権者等ハ利益ニ帰スヘキ部分ハ既ニ其弁済ヲ受ケスヽ債務者ニ対シ免除ヲ為シタリトノ抵当ヲ受クヘシ

第八十二条

債権者ト債務者ノ場合ニ於テ各債権者ハ債務者トノ関係上債権ノ全部ニ付キ権利ヲ有スルコトハ勿論ナリ然レトモ債権者ノ関係ニ在ツテハ各債権ノ一部ニ付テ権利ヲ有スルモノニ止マルモノナリトスルヲ以テ債権者ノ一人カ債権全部ノ弁済ヲ受ケタルトキハ更ニ他ノ債権者ハ利益ヲ分ツコトヲ要ス

実際ニ付テ考フルトキハ債務者ノ連帯ノ場合ハ於テ一人又ハ数人ノ債務者カ無資ナル債務者ニアラスシテ単ニ他ノ債務者ノ保証人タ

ルニ過キサル如クアリ得ヘキカ如ク債務ヲ負
担セサル場合ニ於テモ唯一人若クハ数人ハ実際
債権ニ付テ何等ノ固有ナル利益ヲ有スルヿナ
ク単ニ他ノ債権者ノ代理人トシテ債務ヲ訴
追スル権利ヲ有スルニ過キサルヿアルヘシ然
リト雖モ斯ノ如キハ絶テ無クシテ稀ニ見ル処
ニシテ今特ニ説明ヲ為スコトヲ要セサルナリ
右ニ述フル如クナルヨリ本条ノ適用ヲ為ス
ハ債権者ノ一人カ債務者ヨリ債務ノ全部ノ弁
済ヲ受ケ若クハ其固有ノ債務ト相殺シテ法律

上債務者ヨリ弁済ヲ受ケタルモノトナリタル場合ニシテ他ノ債権者ニ対シ求償権ニ基ク債権者ノ為ニコトヲ得ヘシ而シテ此求償権ハ債権者相互ノ権利ノ限度及ヒ其ノ特別ノ関係ニ従テ定ムヘキモノナリトス（財産第分三百九十八条分二項）

第三款　債権者ノ連帯ノ終了

第八十三條

本款ニ於テ云フ法律規定スル所モ又債務者間ノ連帯即チ受方ノ連帯ノ第三款ニ於テ規定セル所ト等シク債権自体ノ消滅ニ拘ハラス連帯ノシテ終了セシムル原因ノ規定スルノミヲ以テ債務者連帯ノ場合ニ於テハ債権者ノ抛棄ヲセ債権者ノ外権ナル二ケノ原因ニ依リ連帯ノ終了シ其ノモノナリト雖モ債権者ノ君ノ連帯ニ在ツテハ斯ノ如クナラス

第七十条及ヒ七十一条債

権之者ノ連帯ニシテ消滅セシムルハ唯抛棄アルノミ蓋シ債務之ハ此ノ場合ニ於テ債権者ノ一人若クハ数人カ連帯ノ権利ヲ失ヒタルトキ宣告セシムルニ何等ノ利益ヲ有セサルノミナラス債務者ハ却テ反対ノ主張ヲナスヿヲ得利益ヲ有スルモノナリ

〔参照〕第八十五条

又債権者カ自ラ共同債権者ノ一人若クハ数人ニシテ連帯ノ権利ヲ失ハシムルニハ其者ニ於テ特別ナル義務ノ関係アルヿヲ仮想セサル可カラス而シテ斯ノ如キ事情ハ此ニ規定スル債権之間

ノ連帯ニ関係ナキ所ノヿナルヲ以テ特ニ説明

ノ連帯ニ関係ナキ所ノ丁ナルヲ以テ特ニ説明
ヲナスヿヲ要セズ假令ハ共同債務者ノ間ニ於
テ合社契約又ハ代理契約ヨリ生ズル義務アル
場合ニ於テ債務者ノ一人若クハ數人カ誠実ニ
此義務ヲ履行セサリシカ如キ場合是トナリ
連帯債務者ヲシテ連帯ノ権利ヲ失ハシムル原
因ヲ拠棄ハ明示ノモノタルヿヲ要ス此点ニ
於テハ債務者ノ連帯ノ場合ニ於ケル拠棄ト
全ク異ナレリ蓋シ受方ノ連帯ノ拠棄ハ必ズシ
モ明示ノモノタルヲ要セズ尚ホ黙示ノモノタ

ルヿヲ得ヘケレハナリ（参照財産編第五百十条
又本編七十一条）

第八十四条

連帯ノ抵当権ヲ有スル債権ヲ債権者カ連帯ノ抛棄ヲナシタル場合ニ於テハ各債権者ハ単純ニ連合ノ債権者トナルヘシ且ツ即チ単保ノ証文ヲ以テ立証ス第七十条ノ規定ニ譲リタル所以ナリ

若シ右ニ掲クル如クナラスシテ債権者中ノ一人又ハ数人ノミカ連帯ノ抛棄ヲナシタル場

合ニ於テハ拋棄ヲナサヽル他ノ債権者ハ依然トシテ連帶ノ債権者ト共ニ即チ全部ニ付テ各債務者ヲ新庭スル能ハサリ而スルヘシ然レトモ此場合ニ於テ請求シ得ヘキ全部トハ同一ナルヿヲ得スト即チ拋棄ヲナシタル一人若クハ數人ノ利益ニ帰スヘキ部分ハ之レヲ除スルヿヲ要スルハ勿論ナレハナリ

右ニ述ヘタル連帶ノ拋棄ハ代理ノ拋棄ト甚タ類似スル所アリ連帶ノ債権者ノ相互ノ代理ハ直接ニ廢棄スルヿヲ要セレヲ要セサル也

の得ストモ委任ヲ受ケタルモノハ是レヲ委
棄スルノ意ニシテ此委棄ハ要スルニ前ニ
述ヘタル抛棄ニ外ナラス然而シテ間接ニ委任ノ
廢棄ニ帰着スヘシ何レトナレハ斯ノ如ク抛棄
シタルモノハ其性質トシテ他ノ債権ニ
利益ニ帰スヘキ部分ノ請求スルヲ能ハサルト
同時ニ他ノ債権ニモ亦抛棄ヲナシタル債権ノ
利益ニ帰スヘキ部分ヲ債務ニ変更スル抛
棄ヲモナレハナリ

第八十五条

前条ノ法文ハ主トシテ連帯ノ抛棄ニ関スル

前第ノ法文ハ主トシテ連帶ノ拋棄ニ關スル連帶債權ニ付テノ相互ノ關係ヲ規定スルモノナリ此債權ニ付テノ相互ノ關係ハ更ニ債務者トノ關係ニ適用セラルヽヿヲ得ルニハ債權者ノナシタル連帶ノ拋棄ニ付キ債務者カ右ノ告知ヲ受ケタルヿ又ハ此告知ナキモ債務者カ確實ニ是レヲ知リタルヿヲ必要トス

要スルニ連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ有効ニ成立スルヿヲ得ヘシ然レトモ債權者ニシテ此拋棄ヲ爭フヘキ正當ナル利益ヲ有ス

ル時ハ法律ニ於テ固ヨリ是レヲ禁スルヲナシト雖モ如之ヤ債権者ノ抛棄カ債務者ノ有スル権利ヲ詐害シタリト云フヲ得ヘキヤハ各場合ニ付テ研究スル必ナル場合ニ於テ債務者ノ権利ヲ詐害シタリト云フヲ得ヘキ所ナリト雖モ仮令ハ債務者カ債権者ノ一人ニ対シ相殺ヲ主張シ得ヘキ原因ヲ有スルニ当リ其債権者カ抛棄ヲナシタルカ如キ相殺ヲ主張スルヲ敢ハサルニ至リタルカ如キ債務者カ詐偽ノ場合トシテ式ニ掲クルヲ得ヘシ然

レモ尚ホ以抵業カ右ノ場合ニ於テ債務者ノ為メニ損害ヲ生スルニハ其相殺カ法律上ノ之ヘ相殺ナルヿヲ要スヘシ即チ当然債務ノ消滅ヲ来スヿ能ハサル性質ノ相殺ナルヿヲ必要トスヿ敢テ財産備ヲ為ス者ニ於テハ法律上ノ相殺ナル場合ニ於テハ相殺ノ原因既ニ存スルモノトスレテ法廷ニ於テ主張セサリシ時ト雖モ債権者ヲカ為ニ利益ヲ既ニ生スル利益ヲ既ニ債務者ノ既得ノ権利トシテ假ヒ其ノ債務者ヲ或ハ之ヲ以テ債務者ノ為ニ利益ヲ既ニ生スル時ハ其ノ債務者ヲ主張セサリシ時ト雖モ

ノ拠棄ノ為ニ奪ハレタルヘキモノニ非ラス従テ
債務ノ為ニ何等ノ損害ヲモ生セシムヘキモ
ノニ非サレハナリ（参照財産編第五百廿条）